



社会福祉法人 千尋会 令和7年度 事業報告書



目 次

○社会福祉法人 千尋会 事業報告	
1. 総評	2
○千尋会 本部企画室	2
1. 総括	
2. 重点実施事項の取組と成果	
○千尋会 総務	11
1. 統括	
2. 重点実施事項の取組と成果	
○千尋会 生活支援体制整備事業（南風原町受託事業）	11
3. 統括	
○千尋会 食支援室	12
1. 総括	
2. 重点実施事項の取組と成果	
3. 誤嚥性肺炎入院年間比率	
○介護老人福祉施設 嬉の里	14
1. 総括	
2. 重点実施事項の取組と成果	
3. サービス提供実績	
○短期入所生活介護事業所 嬉の里 デイシス	16
1. 総括	
2. 重点実施事項の取組と成果	
3. サービス提供実績	
○特定有料老人ホーム むつみ寮	17
1. 総括	
2. 重点実施事項の取組と成果	
3. サービス提供実績	
○通所介護事業所 嬉の里デイサービスセンター	19
1. 総括	
2. 重点実施事項の取組と成果	
3. サービス提供実績	
○嬉の里居宅介護支援事業者	21
1. 総括	
2. 重点実施事項の取組と成果	
3. サービス提供実績	

社会福祉法人 千尋会 事業報告

1. 総評

1-1 施設基本方針の基に、明るい挨拶を心がける教育プログラムを取り入れて、職員の接遇マナー等の向上を図り、人間関係を築き、丁寧なサービスを提供し（来客者・利用者家族・利用者）から高い評価が得られた。接遇教育は、今後も継続しておこなう。

1-2 介護 DX（デジタルトランスフォーメーション）ICT 機器等を利活用し、科学的介護のデータに基き、利用者の個々の状態に合わせたケアが提供できた。また、看取り期ケアでは、眠りスキャンデータに基づき、家族に迅速な連絡体制が取れたことと、職員の精神的負担軽減にも繋げることができた。

1-3 働き方改革を進めると同時に、ICT 機器等を利活用し、介護事故の減少と職員の精神的負担軽減、事故分析等に ICT 機器を活用できた。職員一丸となり、日々の小さな積み重ねの大切さを実感することができた。

1-4 地域を支え地域に信頼される施設作りの取り組みとして、田崎グループ職員が一丸となり、「専門職ネットワークはえるん」を中心として、地域の介護予防啓発活動や小中学生に認知症等教育を実施できた。

1-5 令和 7 年度は、関係機関が必要とする（支援活動・空床）等の情報発信が不足していたので、今年度は、関係機関等が必要とする領域のニーズを把握し、利用者獲得に向けてマーケティングに取り組みます。

社会福祉法人 千尋会 本部企画室

1. 総括

今年度は、職員の定着支援と地域展開の深化に注力しました。

環境整備では、時間単位年休取得や職員へのエステ導入、アンケートに基づく駐車場改修等を行い、福利厚生を拡充しました。

育成面では、専門職別の人事考課改訂や多角的な面談フローの構築により、個々の成長に寄り添う体制を整えました。また、ICT 活用や SUP 研修を通じ、専門性と接遇の向上を図りました。

地域活動では、「専門職連携ネットワークはえるん」を軸に 26 件の出前講座を実施し、保険外サービスの提案も行うなど実効性を高めました。

施設見学も 13 件に達し、法人の取組みは外部からも高く評価されています。

今後の課題は、21.8%に上昇した離職率への対応です。退職理由の精査や魅力ある研修の企画、現場の応援体制構築を通じ、より強固な組織づくりと地域貢献の両立を目指します。

2. 重点実施事項の取組と成果

(1) 人材の確保・定着に向けた働きやすい環境づくり

① 昨年企画し 4 月から実施スタート

- ✓ 1 時間単位での年休取得
- ✓ アニバーサリー休暇
- ✓ ウェルネス休暇
- ✓ 利用者請求、領収書の発行をアプリケーションで配信

- ② 節電及び熱中症予防ポスター作成貼りだし（４月）
- ③ 現場を盛り上げるコミュニケーションイベント（７月）※別紙資料
- ④ 多様性個性尊重ポスター作成貼りだし（７月）
- ⑤ 職員アンケート実施（８月）
 - ✓ 早番駐車場に街灯設置
 - ✓ 固定勤務職員のフリー化
 - ✓ 第二駐車場整備（拡張・線引き）
- ⑥ 職員制服のリフレッシュ（９月）
- ⑦ 職員名札変更（９月）

顔写真を廃止し、フルネーム漢字記載から姓のひらがな表示に変更
- ⑧ AI の活用 議事録作成の効率化（１０月）
- ⑨ 職員リラクゼーションマッサージ（エステ）スタート（Ｒ８年１月～）

職員の健康経営の一環として福利厚生に導入
- ⑩ デジタル広告調整（Ｒ８年４月～）

南風原町役場 １Ｆ 広場で、施設の映像・広告を発信
- ⑪ 居宅介護支援事業所ケアマネージャー向け情報発信（Ｒ８．３月～）

専用 LINE を作成し、法人やデイサービスの行事予定を発信
- ⑫ ND ソフトモデル事業で千尋会での「介護ソフトほのぼの」の運用事例が紹介
- ⑬ 介護リフト普及のための「かるがるスリング」採用。運用事例が紹介

（２）人材育成システムの構築

- 人事考課の見直し、改訂

全職種一律ではなく、より各職種の専門性に沿った評価が出来るように、各専門職や所属長から情報収集・ヒアリングを実施し内容を改訂。各職種のプロとしての重きをどこに置くのかを見極め、質の標準化や更なる向上を目指せるような内容とした。
- 考課する際の考課者の更なる負担軽減を図れるよう、また、前期と後期で改善点が分かりやすい内容へ改訂も行い、評価だけでなく育成に繋がるよう工夫した。
- 個別面談表の見直し改訂

職員が、独自の取り組みを話しやすい内容へ改訂、職員にとっては自己アピールの機会・面談者にとっては、職員から話を引き出す機会や気づきになるようにすることでコミュニケーション能力の向上を狙った。

また、面談のやり方を SUP 研修と連動し実践していくことで面談スキルの向上を図った。
- 新職員の定期的なフォローアップ面談

フォローアップ面談を継続。その面談の中から、指導方法や新職員への対応に課題があることに気づけた。課題に対し、所属長や関係職員と連携し、課題に沿って適宜役割を分け対応することで迅速な課題の解決・働きやすい環境づくりの取り組みに繋がった。

● 新職員手技指導

ユニットリーダーや所属長と連携し、新職員のまだ習得していない手技や苦手な手技に対し、マンツーマンで指導。まずは自身で体験して入居者側の思いを知ってもらった上で、実技指導に入った。

入居者側の体験をすることで、より入居者の気持ちに寄り添ったケアが出来るよう努めた。

● ケアサポーター支援

- ・ 障害のある職員に対し、マンツーマンでサポートし能力の見極め、活躍できる業務内容を構築。身体能力に合わせたリフトの活用方法を一緒に思案し、リフト移乗をマスターすることが出来た。本人のやりがいにも繋がり、勤務時間を4時間→7時間へ伸ばすことが出来た。
- ・ 就労支援の職員に対し、各職員の能力に合わせ適宜業務内容を検討。1人退職があり、伴って大きな業務内容の変更があったが、精神面にも配慮しながら業務量の調整を行うことで安定が図れた。

● ICT 機器、DX への取り組み

- ・ 眠りスキャン波形勉強会を定期的実施。パラマウント認定看護師を招き波形から読み取れる入居者の身体の変化の予兆や、夜間の安眠に繋がる対応のアドバイスを受けた。ただの見守り機器ではなく、データをケアに生かす科学的介護への職員の意識が高まった。
- ・ ケアパレットの活用を推進黨入居介護職全員がタブレットを使用し入力を行うよう推進、紙でのチェック表を一部廃止し、記録物のペーパーレス化の一步を進めた。入力や情報収集にかかる所要時間の短縮に繋がった。

● 昇任人事、役職者研修体制の構築

昇任人事、新リーダー等を対象に、役職ごとの研修体制を構築した。研修では、職務内容と職層ごとの心構え、求められる能力や理念の意義の再確認など、求められるリーダー像を共有し組織体制の土台作りに取り組んだ。

● SUP 研修実施

アグレアーブル印象美人あらかき咲美さんを講師に招き、今年度はCS満足度・ES満足度の向上を目的に、共通の原点である「基本のあいさつ」コミュニケーション、接遇マナーを身につけ法人イメージ向上に繋がるよう研修を実施した。

- ✓ 一般マナー研修（全職員対象）：原点である「あいさつ」がどれだけの効果を生み出すのか。非言語の重要性・表情トレーニング・発声練習を含め実践形式で行い、好印象を感じていただける接遇を身につける
- ✓ 業務リーダー：リーダーとしてのあるべき姿を言語化し、千尋会の目指す“リーダー像”を明確化する。リーダーとしての自覚・考え方・部下とのコミュニケーションの取り方を学んだ。
- ✓ 所属長（主任・副主任）：今回は業務リーダーの研修に、オブザーバー・ファシリテーターとして参加。研修実施前に目的を共有し参加することで、的確な助言やフォローの役割、リーダーの思いや考えを知る機会とした。

- ✓ 相談室：千尋会の顔として、接遇だけでなく数字も意識する考え方にシフトしていく。そのために、部署内でどのような連携が必要か、求められる連携とは何かを学んだ。

- 法人間交換研修（R6.10～実施中）
緊急時に事業の継続・早期復旧を図ること、平時からの協力体制を構築することを目的に実施した。令和7年度は、千尋会から老健へ14名。老健から千尋会へ17名を受け入れ実施した。

⑩ 施設見学・情報交換の実施状況

- 千尋会の取り組み(IoT、介護ロボット、生産性向上への取り組み)が評価され県内外から施設見学、意見交換会の依頼が増えた。※13件

⑪ マスコミ、メディア等

- ✓ めぐるプロジェクト
- ✓ 開邦高校絵画展示 12/24～3/18
- ✓ ラジカル沖縄 華々天国
- ✓ 株式会社 武虎

かるがる®スリングで
【課題解決】

導入事例
No.4



社会福祉法人 千尋会 嬉の里



施設情報

入居者数 70 床
(ショートステイを除く)
施設の形態 介護老人福祉施設
使用リフト 床走行式リフト

介護リフト普及のため「かるがるスリング」採用に至ったケース

利用状況 主に要介護4・5の方が利用、10枚導入。
多職種カンファレンスで入居者様にあった移乗方法を検討。
吊り上げタイプのリフトだけでなく、スタンディングリフト、スライディングボードも使用

課題① 職員の教育

解決 入職時研修はもちろんの事、既存職員に対して
も移乗研修を実施している。「抱え込み介助」「介
護リフト介助」のそれぞれを介助する側・介助される側の立
場となり実際に体験研修を行っている。双方を体験すること
により「介護リフト」の安心感や必要性が身をもって感じら
れる。介護リフトを日常的に使用するため人事考課の評価項
目に盛り込み全体の意識改革を行っている。



課題② 腰痛の軽減/精神的・肉体的負担の軽減

解決 介護リフト活用のきっかけは、腰痛を抱える職員が「これならで
きる」と自信を持てた事。活用により、職員の移乗への精神的・
肉体的負担が軽減した。職員全体に普及させるために、敷き込み作業の負担が
なく、手軽に使用できる「かるがるスリング」を使用している。
現在はノーリフティング委員会が構成され、福祉用具の選定や安全かつ適正な
使い方に力を入れている。



課題③ 介護テクノロジーの普及効果

解決 介護リフト導入当初は、脚分離型スリングを使用していたが、手
間と時間がかかることから敬遠されていた。「かるがるスリング」
を採用したことにより、敷き込むだけで簡単に利用ができ時間が短縮されリ
フトの使用が加速した。なおかつ、入居者様も無我無く安全に移乗できるよ
うになったため、入居者の安全と職員の腰痛防止にも繋がっている。



 **株式会社 竹虎.**
<https://www.takakura-web.com/>

【ホームページ】

〒221-0011 神奈川県横浜市西区南青木2-21-1 豊田ビル2F
平日 TEL 045(680)0390 FAX 045(680)0399
土日祝 TEL 06(6386)7317 FAX 06(6386)7389

24_047

3月 イベントカレンダー

社会福祉法人 千尋会

日	月	火	水	木	金	土
施設イベント 移動販売（玄関前13時ごろ）						
1	2	3	4	5	6	7
		パン販売				
8	9	10	11	12	13	14
	防災訓練			施設見学 社会福祉事業団	誕生日会	
15	16	17	18	19	20	21
		パン販売	タコス販売	コーラスサークル	カフェ休み	田崎グループ 新入学祝会
22	23	24	25	26	27	28
			デイサービス クッキング		とうふ販売	

注目のイベント！

9日 14:00～14:50 総合防災訓練
 19日 14:00～15:30 コーラスサークル
 25日 14:00～15:00 デイサービスクッキング

イベントの情報や様子など施設インスタグラムで更新中！
ぜひチェックしてね！



社会福祉法人 千尋会 総務

1. 総括

今年度は、来客者が最初に接する窓口としての意識を再認識し、品位ある丁寧な対応を目標に次のことを心がけました。取り組みとしては、接遇講習の受講や総務内気づきを大切に、サポートし合う体制づくりをすることで、積極的な挨拶、迅速、円滑な対応を実践、以下のように事務業務の効率化にも取り組みました。

2. 重点実施事項の取組と成果

(1) 静脈認証勤怠システムの導入について

静脈認証勤怠システムを導入し、打刻管理、年休管理、給与計算システムがシームレスに連携したことで作業時間の軽減、月平均残業時間を8時間から1時間程度削減、勤怠に関する休暇等届出書、時間外月報の提出廃止しペーパーレス化、経費削減にも取り組んでいます。(令和7年度2,500枚 削減額 約4,000円)。

(2) つながる家族(利用者請求書・領収書)アプリ導入について

令和6年10月つながる家族(利用者請求書・領収書)アプリを導入し業務の効率化、経費削減に取り組んだ。

✓ 切手代・用紙代・封筒代コストの大幅削減(削減額 約150,000円)

(切手代約119,000円 用紙代6,000円(約3,140枚) 封筒代約25,000円)

✓ 介護ソフトのデータをそのまま配信できるため、宛先間違い等誤送信のリスクが低減。

●つながる家族アプリ利用状況(令和8年3月末時点)

- ・嬉の里(特養) 73名中48名 (65.8%)
- ・嬉の里(短期) 51名中25名 (49.0%)
- ・通所介護 62名中29名 (46.8%)
- ・むつみ寮 34名中24名 (70.6%) (全体220名中126名:57.3%)

⇒引き続き相談室と連携し、アプリ登録の推奨を行います。

(3) 後納郵便の利用について

後納郵便を利用することにより、小口現金や立替精算、稟議書の作成、在庫管理が不要となり、口座振替による支払のため請求書発送業務の業務効率化にも繋がった。

千尋会 生活支援体制整備事業(南風原町受託事業)

1. 総括

令和7年度から南風原町より受託した生活支援体制整備事業において、これまでの担当4地域(東新川、大名、北丘ハイツ、宮城)に加え、新たに2地域(与那覇、新川)を加えた6地域を担当。地域活動や困りごと、ニーズの把握、資源の情報提供や関係機関をつなぐマッチング、情報の可視化に取り組みました。福祉協力員連絡会(民生委員を支えるボランティアの集まり)では、福祉マップの作成や地域資源の整理を通して、地域内の資源を見える形にするとともに、見守りの大切さについて共有しました。あわせてお宝発表会では、住民同士で日頃から行われている身近な支え合いの活動に着目し、その意義を整理・発信し、地域を支える取り組みとして表彰を行いました。さらに、協議体は年2回開催し、地域住民と、町内企業・事業所がともに地域課題について話し合う場を設け、意見交換を行いながら今後の連携や協働の可能性に向けて取り組みました。

社会福祉法人 千尋会 食支援室

1. 総括

一定の成果は出ましたが、理想とする姿から見ればまだ道半ばにすぎません。

ケアの質を高めるために、各専門職の特性を活かし食支援がスムーズに行え続けられるよう、今年度の目標も①「専門性を高める」②「情報共有・多職種連携」としました。

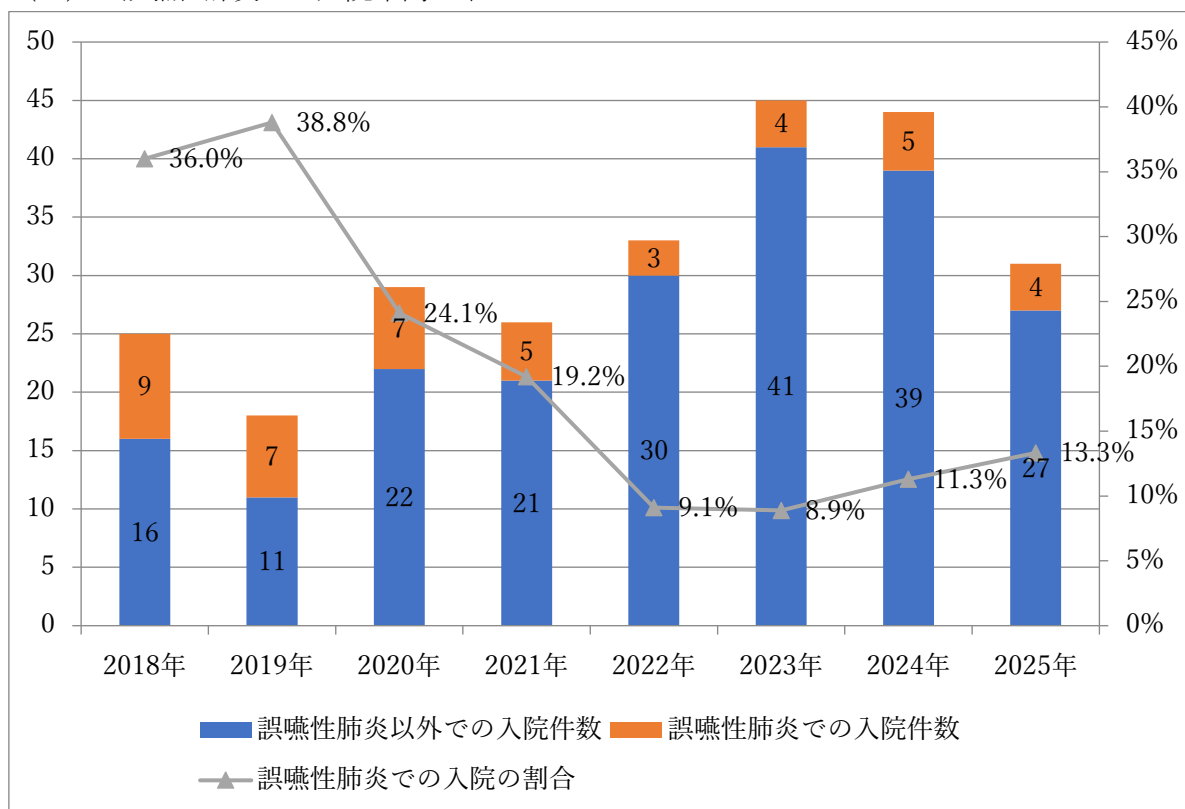
安全に食事摂取ができ、生活の中で食事を楽しんで頂けるように、また細部まで気を配ったケアを継続できるよう、多職種との情報共有や連携に力を入れてきました。専門職からの情報発信や指導等を交え、多職種が口腔ケアや嚥下機能に対する認識や重要性について理解しケアに活かしています。また、管理栄養士2名配置により、体調変化や食欲不振時に早い段階で介入し、細やかな食事支援に繋げることができました。

昨年度より、誤嚥性肺炎で入院する利用者の増加がない状況も、多職種との情報共有や連携が継続できているためだと感じています。

2. 重点実施事項の取組と成果

- 回想法の効果や栄養・健康の情報を発信する場として、デイサービスの利用者様と一緒に料理教室（月1回・コラボッキング）を開催しました。
- 専門的視点を持ち指導できるよう、2ヶ月に1回、介護リーダー・各部署の主任対象に摂食・嚥下体験会を開催。2ヶ月に1度、CMS通信として発行しました。

(1) 誤嚥性肺炎での入院年間比率





食事介助スキルスコア

(FASS : Feeding Assistance Skill Score)

「食事介助スキルスコア」は食事介助技術を客観的に評価する指標として開発されました。全10項目で姿勢や体勢、状態確認、介助する人の技術的内容を点数化し評価するものですが、食事介助の基本をまとめたものとも言えます。

食事介助 技術向上で期待できる効果



実際には全項目丁寧に行うのは難しく、また、この10項目だけ行えばよい、というものでもありません。食事介助を行うにあたっての必要最低限なスキルとして意識していきたいものです。

【参考】

◇「食事介助スキルスコア」の概要と活用のポイント(助編) 永野綾乃 臨床栄養 146巻2号
◇(株)ビジョンタヒラHP 介護コラム第33回「食事介助」

1. 被介助者の身体が左右にかたむかないように調整している
2. 被介助者の足底が床や台座等につくように調整している
3. 被介助者の頭頸部が軽度前屈位になるように調整している
4. 食事開始前に発声を確認するなど、唾液や痰の貯留がないか確認している
5. 被介助者に見える位置で食事をすくっている
6. 介助者は被介助者の右側から介助するときは右手、左側の場合は左手でスプーンを持ち介助している
7. 被介助者の顎が上がらないようにスプーンを操作し、口に挿入している
8. スプーンが上唇に擦るように引き抜いている
9. 食べているものを被介助者が視認するように配慮している
10. 被介助者のペースを乱さないように次の一口を準備している

介護老人福祉施設 嬉の里

1. 総括

今年度は、業務改善に力を入れ必要な時間に必要な場所へ必要な人材が支援に入れるように、人員配置を大きく変更しました。AX、DX 推進に取り組み、ほとんどの職員が移乗介護ロボットを常時使用するようになり負担軽減につながりました。IT 機器の導入や活用にて会議の議事録作成や記録時間の改善にも取り組み、業務の効率化に取り組むことができました。

また活動ではフロア単位の活動も増え、外出支援やイベント開催など、季節を感じて過ごせる機会が増えました。

2. 重点実施事項の取組と成果

- ① 移乗サポートロボット「Hug」や「移乗リフト」の活用したケアが増え、入居者、介助者双方にとって負担軽減となりました。ケアパレットの導入で記録時間の短縮、画像の使用で経過や状況がわかりやすくなった。眠りスキャンで状態確認し、適切な時間に支援。データを活用したケアを実現した。

3. サービス提供実績

(1) 年間平均実績 (R8.3.31 時点)

- 稼働率 実績 99.5%
- 平均介護度 実績 4.0

項目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
稼働率(%)	99.4	99.3	99.6	100	99.5	100	99.5	98.4	99.7	99.8	98.9	99.8	99.5%
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	1	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	0
要介護 3	17	15	15	15	15	15	14	16	16	16	14	15	0
要介護 4	31	32	32	32	34	32	33	34	34	34	37	36	0
要介護 5	20	21	21	22	20	21	21	17	18	18	17	17	0
新規入所者計	1	3	2	1	2	0	3	4	1	1	3	1	計 22
退所者計	2	2	2	1	2	0	2	5	0	1	3	1	計 21

(2) 年齢構成 (R8.3.31 時点)

	64 歳 以下	65～ 69 歳	70～ 74 歳	75～ 79 歳	80～ 84 歳	85～ 89 歳	90～ 94 歳	95～ 99 歳	100 歳以上	合計 人数	平均年齢
男性	0	1	1	1	0	8	11	0	0	22	87 歳 6 ヲ月
女性	0	0	1	5	3	16	12	11	0	48	89 歳 8 ヲ月
合計	0	1	2	6	3	24	23	11	0	70	89 歳

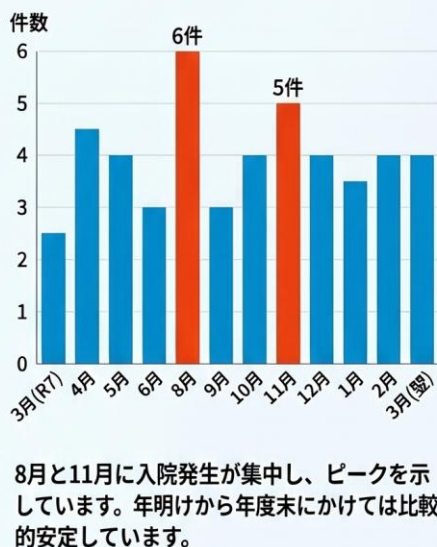
令和7年度 入退院状況分析レポート： 主要疾患と入院傾向の視覚化

令和7年度の計31件の入退院記録に基づき、主要な疾患、月別の発生傾向、入院日数の分布を可視化し、施設における健康管理の重要課題を浮き彫りにします。

疾患別入院件数の内訳



月別入院発生傾向



入院日数の分布



注意すべき主要要因：誤嚥性肺炎と尿路感染症



誤嚥性肺炎：
繰り返すリスクと入院期間

最短5日から最長46日まで幅があり、11月に集中するなど、時期による集団発生のリスクも示唆されます。



尿路感染症：
長期化する傾向

73日や81日といった非常に長い入院日数が必要になるケースがあり、早期発見が重要です。

短期入所生活介護 デイシス

1. 総括

今年度は「毎月の外出機会の提供」を目標に掲げ計画的に実施しました。結果として毎月の外出目標を達成できました。利用者様の気分転換にも繋がりご家族様からも「私たちでは連れていけないから、とても良かった。本人も喜んでいました」等の評価を頂く事ができました。

ショートステイ中の過ごし方を詳細に記録し連絡帳を通じた細やかな報告に努めました。特に家庭でのケア方法（排泄ケア、服薬時間等）を最優先に考え、施設利用中でも「自宅での延長線上」としてのケアを意識して取り組みました。同性介助を希望される利用者様に対し、ユニットの枠を越えた協力体制で柔軟に対応しました。

引き続き、眠りスキャンや Hugなどを積極的に活用し利用者様の睡眠状態の把握や安全な移乗介助を実施、ケアの質向上と身体的負担の軽減を両立させる事ができました。

2. 重点実施事項の取組と成果

(1) サービスの質の向上

- ① 外出の機会を増やす為に、毎月計画し多職種と連携する事で、安心安全な外出を実施する事が出来ました。利用者様も馴染みのある場所から、初めて行く場所まで、気分転換になり楽しまれていました。
- ② ショートステイ利用中の様子を細かく記録し、活動内容や体調、排泄、睡眠状況など、家族様が特に気にかけられている点を中心に連絡帳へ記載し、日々の変化を共有するように取り組みました。

3. デイシス短期入所サービス提供実績

(1) 年間実績と平均介護度 (R8.3.31 現在)

- 稼働率実績 79.3%
- 平均介護度 2.6

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
稼働率(%)	82.0	77.4	71.3	71.3	81.6	82.0	83.5	85.0	78.7	75.5	82.5	81.3	79.3%
総利用数	262	256	233	240	272	265	284	273	260	251	248	262	3106
要支援 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	11
要支援 2	2	2	3	3	4	3	3	2	2	2	3	2	31
要介護 1	12	12	12	11	10	11	12	11	8	10	10	13	132
要介護 2	13	13	10	14	12	11	12	10	11	12	12	10	140
要介護 3	9	11	11	13	13	12	11	11	14	13	12	13	143
要介護 4	9	10	8	9	9	10	10	13	13	8	9	8	116
要介護 5	5	4	2	3	4	2	4	3	4	4	4	3	42
平均介護度	2.6	2.6	2.5	2.5	2.6	2.5	2.6	2.8	2.8	2.5	2.5	2.5	2.6
利用者数	51	53	47	54	53	50	53	51	53	50	51	49	615

特定有料老人ホーム むつみ寮

1. 総括

本年度は、入居者様一人ひとりの生活の質向上を目指した支援に取り組みました。自立支援を軸としたケアの実践により、日常生活動作の維持・向上が見られる場面も増えました。

また、福祉用具を使用する入居者様が増えた中で事故防止に向けた取り組みとしてヒヤリハットの共有と分析を継続し、職員間の意識向上が図られました。

2. 重点実施事項の取組と成果

- ① 専門職が連携し、定期的なカンファレンスを実施した。入居者様の心身の状態や生活状況について情報共有を行った。ケアパレットを活用することで日常的な申し送りや記録の充実により、職種間の情報伝達の精度向上に努めた。

3. 特定有料老人ホームサービス提供実績

- 稼働率 92.9 %
- 平均介護度 2.6

項目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計・平均
稼働率(%)	93.3	93.3	93.3	92.9	92.8	93.3	93.3	93.3	93.3	93.3	92.2	89.8	92.9%
要支援 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	9
要支援 2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	15
要介護 1	8	7	7	7	7	6	6	6	6	6	4	4	74
要介護 2	8	8	7	7	8	9	9	9	9	9	9	9	101
要介護 3	4	5	6	6	6	5	5	5	5	5	7	7	66
要介護 4	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	5	5	65
要介護 5	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	28
新規入所者計	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	4
退所者計	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2	1	6

※入院日数については入院日、退院日を含まない

(1) 体験利用室実績

- 平均実績 70.8%

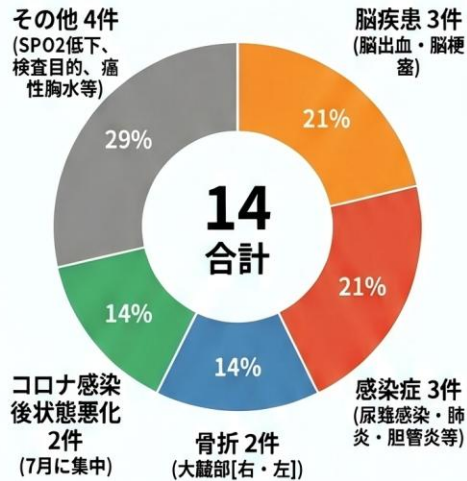
項目 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計・平均
稼働率(%)	76.7	79.0	90.0	67.7	85.5	65.0	58.1	66.7	56.5	58.1	64.3	82.3	70.8%

(2) 年齢構成

	64歳以下	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	合計	平均年齢
男性	0	0	1	2	1	1	1	0	0	6	82
女性	0	0	0	0	2	4	9	6	1	22	92
合計	0	0	1	2	3	5	10	6	1	28	90

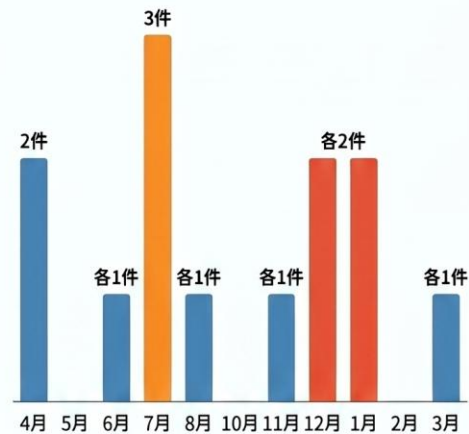
令和7年度 入退院状況分析レポート：むつみ寮における主要疾患と入院傾向の視覚化

疾患別入院件数の内訳 (全14件)



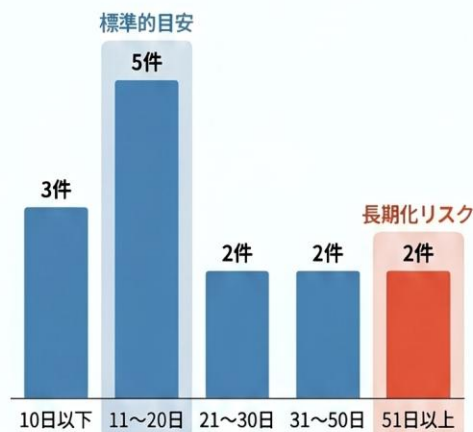
脳疾患と感染症が全体の約43%を占める
脳疾患、感染症、その他がそれぞれ高い割合を占め、多角的な健康管理が必要です。

月別入院発生傾向 (4月～翌3月)



7月に発生のピーク (3件) を確認
夏場 (7月) や冬期 (12月～1月) に発生が集中する傾向が見られます。

入院日数の分布 (5区分)



11～20日の中期入院がボリュームゾーン
全体の約35%が20日以内の退院ですが、長期化するケースとの二極化が見られます。

注意すべき主要要因 (脳疾患と骨折)



脳疾患 (脳出血・脳梗塞) : 最大100日に及ぶ超長期入院の事例があり、早期発見とリハビリ連携が重要。



骨折 (大腿部等) : 転倒による骨折が30日以上入院に繋がるリスクがあり、施設内での転倒予防策の徹底が必要。

嬉の里デイサービスセンター

1. 総括

令和7年度の嬉の里デイサービスセンターの取り組みとして、職員の一人一人の力を引き出し「グループからチームへ職員同士の声掛けを活発に組織における相互理解を深める」を部署目標としてきました。

職員同士の声掛けを活発に行うことで、理解を深めお互いの動きや利用者様の対応が効率よい動きになるよう重点的に改善しています。

日常の取り組みとしては利用者様の余暇時間の減少。職員の配置や業務内容を変えることで午前中の活動時間を大幅に増やすことができ、以前よりも身体を動かす時間が増えた。と好評の声を頂いています。毎月の活動にはご利用者のアンケートによるご意見を取り入れた活動を実施してきました。

生活リハビリポイントカードを取り入れて3年目を迎えます。多くの利用者様がポイント（景品）を楽しみに活動されるようになりました。引き続き管理が難しい方への職員の働きかけが必要。他部署でもリハビリポイントカードを取り入れた部署があり、影響を与えていると感じている。

2. 重点実施事項の取組と成果

(1) サービスの質の向上

① 食支援室コラボ企画（四季に合わせたウチナー料理、おやつ作り）
ビューティーケアコラボも毎月実施しました。

② アンケート（利用者満足度、ニーズ）を3月に実施しました。ご利用者、ご家族にアンケート回答を頂きました。特に多かった要望を活動に取り入れる事が出来ました。（ドライブ、料理会、園芸活動等、コーラス）

③ 職員の知人からの依頼で琉球古典の民謡会や地域ボランティアの案内で演奏会を年に3回を実施することができました。

⑥リハビリの一環として外出を月に2回程度、実施しています。

3. サービス提供実績

(1) サービス提供実績（定員 35 名）

月 項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
営業日数	26	27	25	27	26	26	26	25	27	24	26	26	311
延べ人数	682	703	629	674	642	584	607	614	654	592	600	720	7701
1日平均 利用者数	28	27	26	27	26	24	25	26	26	27	25	28	26
平均介護度	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.4	2.2	2.1	2.1	2.2	2.1	2.2	2.2

嬉の里デイサービスセンター

支援室コラボ **クッキング**



一緒に体験してみませんか？
お気軽にお越しください

日時：令和8年2月25日 14時～15時
場所：嬉の里 パブリックホール

お問合せ：098-888-0591 音声ガイダンス①

嬉の里居宅介護支援事業所

1. 総括

居宅ケアマネ2人となり、利用者人数も30名前後と安定してきました。

田崎グループ在宅系部門連携会議に参加し情報共有する事で、通所部門の連携が強化され在宅生活支援に取り組んでいます。令和7年10月に運営指導では、指摘事項等ありませんでした。

2. 重点実施事項の取組と成果

(1) 利用者や地域のニーズに対応した質の高いケアマネジメントの推進及び社会貢献

- 地域にある社会資源の情報を把握し事業所内で定期的な情報伝達を行い、利用者へのケアマネジメントに活かしました。
- 虐待防止・感染症・BCP災害研修・訓練についての対応力向上のため、研修や勉強会に参加しました。

(2) リスクへの対応力強化

- BCP（業務継続計画）に沿って訓練・研修を行いました。独居利用者の安全確保、避難経路の把握、避難方法など課題を確認出来た。
- 沖縄県等が開催する「沖縄県介護支援専門員スキルアップ研修」BCP作成研修に積極的に参加しBCP作成の参考、見直しを引き続き行っていきます。

3. サービス提供実績

(1) ケアマネ毎の月の担当件数数

担当 CM \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
A	30.5	30.5	29.5	30	30	28	27	28	27	28	29	30
B	31	33	30	28	32.5	30.5	30.5	32.5	29.5	30.5	32.5	32.5
嬉の里居宅全体合計担当計	61.5	63.5	59.5	58	62.5	58.5	57.5	60.5	56.5	58.5	61.5	62.5

※要支援、総合事業認定者は、0.5